

# 平成27年度 小学生部門

金賞

H27  
小学生



「城島大獅子」

中村 琉輝

福岡教育大学附属久留米小学校

城島町はぼくのおじいちゃんのふる里であり、よくお盆にお墓参りに行っていた町です。お父さんにも小さいころから城島まつりによく連れていってもらいました。その時、祭りで見た大獅子を引っぱる群しゅうにあっとうされ、また、赤と黒の大きい獅子にびっくりしたことを思い出し、この祭の主役である大獅子を描こうと思いました。

# 銀賞

## 「じてん車でレッツゴー」

さとう まりあ

西国分小学校

わたしのいえの近くにあつて、いろくなじてん車があり、とてもおもしろかったです。じてん車にのれない人もたのしめる公園です。かわいい犬のじてん車や、ふしぎなうごきをするじてん車もあり、とってもたのしいので、みんなにもあそびに行つてほしいです。



## 「ぶどういっぱい」

とよはら そら

田主丸小学校



ほくのきんじょにぶどうえんがあります。  
ぶどうがたぐさんなつてます。そのふうけいをかきました。

## 「筑後川」

吉田 愛

福岡教育大学附属久留米小学校

私は、筑後川の橋から見える景色を絵にしました。よその地に行つて、家に帰るために筑後川の橋を通ると、車の窓ごしに見えるきれいな夕日と、薄いオレンジ色をした雲は、目をみはるほどきれいです。橋を通ると、いつもきれいな景色をみることができます。朝だと東の空にのぼる朝日と、西の空にひろがる夜空が。昼だと雲のすきまから太陽の光がもれて、筑後川の水面がキラキラとかがやいて見えます。夕方だと、真っ赤な夕日と、薄いオレンジ色にそまっている雲が。夜だと、久留米の夜景が水面も見えない夜の川にうつり、まるで川の中に、もう一つ都市があるようです。どんな所へ行つても、筑後川の橋を通り、筑後川を見ると、久留米に帰つてきたという実感がわき、心のおくから安心することができます。私は、そんな筑後川の夕方の景色を絵に表しました。



# 銅賞



「筑後川にうつる花火」  
古市 歩里 合川小学校

筑後川にうつった花火がとってもきれいだったのでかきました。また、絵をかく時に、花火のけむりをかくのがたいへんでした。うつった花火もたいへんでした。かく時、花火の音が聞こえてくるようにかきました。あと、橋や草が黒いのは、よるだからです。



「おどる少女」  
榎崎 詩音 小森野小学校

私は、どうぞうのぶぶんを何色かのはいろをまぜてぬりました。あかるいどこ、くらいどこはきょうじやくをつけてぬることにこだわりました。どうぞうの色がくらいので、うしろのバックはあかるいオレンジ色にしました。



「水天宮」  
高田 あやか 合川小学校

水天宮は、三才のときに、七五三のお参りに行った思い出の場所です。本当は小さかったので、あまり覚えていませんが、写真の中の私は、きれいな着物を着て、楽しそうに笑っていました。最近、家族で訪れる機会があったので、なつかしくなって、水天宮をかきたいなあとって、水天宮をかきました。



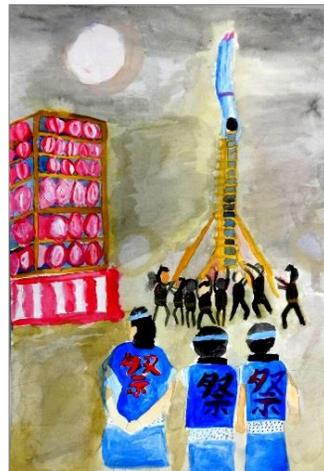
「おみやげ」  
境 千広 江上小学校

いつもがっこうが終わったら、ともだちやきょうだいと楽しくあそんでいたのかきました。



「花火」  
柿添 夏輝 金島小学校

赤くて有名なはしだから。花火も有名。とてもきれいだから。



「水のさいてん」  
春田 百合 金丸小学校

わたしが水のさいてんのはしごのまつりをえらんだ理由は、まい年はしごにのぼってパフォーマンスをするのを見て、とてもすごいと思ったからです。



かわらのところがかわってるとな〜と思いました。かっこいいからこの作品にしました。いままでこんなお店があるとは知らなかったです。

「田主丸のおみせ」  
こが ひろと 田主丸小学校



町のシンボルマーク

「かっぱ駅」  
宮崎 心優 田主丸小学校



保育園生の時に、お母さんに、うさぎやブタ、ニワトリなどを飼っている所につれていってもらって、そこから見える耳納連山の景色がきれい、とても印象に残ったからです。

「私の好きな場所」  
宮田 美咲 田主丸小学校



田主丸駅は正面から見ると、かっぱの顔になっているめずらしい駅です。田主丸は、かっぱが有名なので、かっぱの顔です。正面だけでなく、反対から見ると、かっぱの顔になっています。

「かっぱ駅」  
佐藤 里咲 田主丸小学校



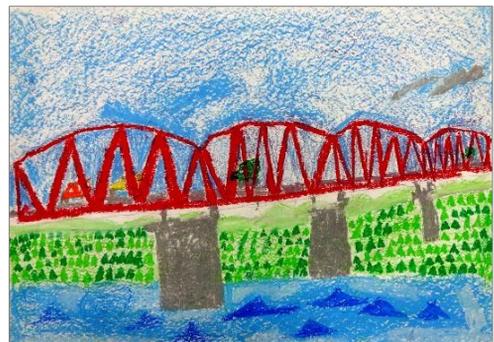
わたしは、家の庭から見えるみのう連山と青空と1りょう列車が好きで、このような自然豊かな景色をたくさんの人に知ってもらいたいと思ひ絵をかきました。この絵で工夫をしたところは3つあります。1つ目は下がきです。遠近法を使い列車が自分にせまってくるようにかきました。2つ目は山の色ぬりです。山脈が分かり、山に見えるように、お母さんにアドバイスをもらいながらぬりました。3つ目は雲です。ただの白色ではなく、うすく水色のかかった色でぬりました。

「耳納連山を1両列車旅行」  
小島 南美 田主丸小学校



私がこの景観にした理由は、三つあります。一つ目は、田主丸の伝統行事だからです。このお祭りは、昔からつづいているそうです。二つ目は、とても楽しかった思い出です。一生に一度の体験ができたからです。このお祭りがずっと続いていって、いろいろな人にも知ってもらいたいので「カッパ祭り」の絵をかきました。三つめは、自然がこのこっていいほしいということです。だからこの景観にしました。

「カッパ祭り」  
野田 莉花 田主丸小学校



ちく後川の流れる上にある橋の中できれいな橋があって、それがかたのせ橋だったので、ここがいいなと思ってかきました。かたのせ橋は水色と赤色の色がきれいな色で、その下には川があり、そのむこうはしばがきれいなのでかきました。

「かたのせ橋がかかる筑後川」  
小島 和毅 柴刈小学校

「家から見える花火」

檀 遥香 金丸小学校



この絵をかいた理由は、私の家のマンションのベランダから見える久留米市役所や建物の中から花火が見えて、二ヶ所から見えるからすごくきれいだったのでかきました。花火の写真をとって、どんな形の花火があったか、などを見たり思いだしたりしてかきました。

「伝統ある厳島神社」

坂井 紅葉 浮島小学校



この神社を選んだ理由は、小さい頃からしみのある神社だからです。1年生の頃には、放課後友達とよく遊びに行っていました。また、夏のお祭りは毎年楽しみにしています。そして、秋の大祭「浦安の舞」では、3年生の頃から学校帰りに踊りを教わり、ひろっています。今年も、浦安の舞を踊ってみて、緊張したけど、きれいに踊れたのでよかったです。

「えつづり」

庄村 光士郎 城島小学校



ぼくのおいちゃんがえつづりをしているから、ぼくはえつづりをえらびました。そしておもいをこめてかきました。

「お城を感じる篠山神社」

福岡教育大学附属久留米小学校 石井 悠人



篠山神社は、江戸時代の久留米藩を約200年間おさめた、有馬氏の居城跡地にたてられました。しき地には、歴代藩主の武器や工芸品などをとんじた有馬記念館があります。立派な石垣があり、緑も多いです。ぼくは、天守くなどはないけど、お城を感じるこの場所にみんなが来てほしいと思い、かきました。

「ぼくたちの厳島神社」

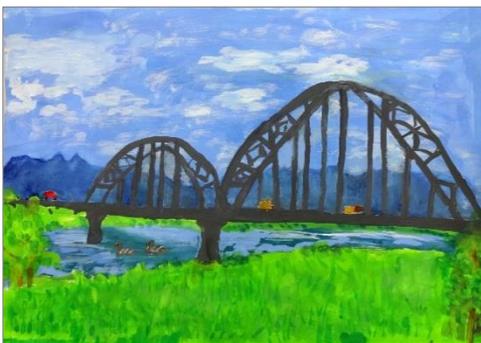
佐藤 亮介 浮島小学校



毎年、夏になったらうきしま祭りがあったり、秋には秋の大祭で浦安の舞があったりして、いろいろな伝統がある神社だから厳島神社をかきました。木を本物のようにいろいろな色をかさねてぬったり、まるで昔からあるように、お宮に色をぬったりなど工夫をしました。お宮の上にあるかざりのかけや、むこうがわにあるものなどに、色を少し変えてぬるなどの工夫しました。

「わたしのちくご川」

福岡教育大学附属久留米小学校 さかた まなえ



このばしょはわたしの家から歩いてすう分のところです。その日はとても天気がよくて、いつもの山や川がきれいであかるく光り、空が広くかんじたからです。

「お世話になった江島神社」

福井 仁生 浮島小学校



この江島神社は毎年夏祭りがあって、浮島小の先生たちがお店を出して、くじや射的があります。横のステージではカラオケ大会やラムネ大会があります。そして秋になると、秋の大祭があり、5、6年女子で浦安の舞をみんなでのおどりました。地域の人たちも一緒に秋の大祭に参加します。今年、浦安の舞をおどったのは最初で最後だったけど、毎日学校の帰りに練習しておどった浦安の舞は、3人であわせながらできたので、いい思い出になりました。



# 平成27年度 中学生部門



## 金賞



「寺町」

志賀 弘子

久留米信愛女学院中学校

この絵は久留米市の寺町という町の風景の水彩画です。自然と文化の中に人が共に生活している様子を構図にしました。普通の水彩画よりもとても製作に時間がかかりました。お寺はとても複雑で難しかったです。絵を通してどのような造りなのか良く分かりました。みなさん、少々荒い所はありますがどうぞご覧下さい。「寺町」という題名ですが、絵に描いている町は本当に寺町という名前の町で、寺がたくさん集まっています。おもしろい町だと思います。久留米にはこういう町があるという事を知ってもらいたいです。4分の1を占める木や、メインである寺を細かく丁寧に仕上げました。筆使いをうまく活用しました。この絵は2本の筆で描き、強弱をつけて迫力をもたせました。全体的に平面な感じですが、手前の方を色を濃くしました。思う様に描けない所もあります。

# 銀賞

## 「水天宮」

渡邊 乃愛

城島中学校

水天宮の絵をかいたわけは、明るい所とくらいところがあっておもしろいと思ったからです。葉っぱの色や建物の色がちがったり、前と後ろにも建物があつたりしていいなと思いました。かげが写っていたりしたので、この作品をえらびました。屋根の部分の暗いところを何度もぬりなおしたりして、明るさと暗さの差を大きくしました。光を表現するのがとてもおもしろかったです。暗いところはとても暗くしたり、明るいところはとても明るくしたりしてぬりました。



H27  
中学生



## 「秋の大祭」

石内 花蓮

北野中学校

この絵は、北野天満宮で毎年行われる「北野くんち」のようすです。私は、北野天満宮の前の道を通っている時に、地域の人や観光客の人たちが、とても楽しそうな顔をしているのを目に入り、そこにあった建物を見てみると、赤色で描いているような、大きな門がありました。私も、この美しい色合いを自分の手で表現してみたいなあと、この絵を描くことにしました。門の奥にはお店がたくさん並んでいて、そのもっと奥にある大きな木は、黄緑色で風が吹くと葉と葉がこすりあって、まるで合唱をしているように思えてきました。お店も、色とりどりのお店がたくさんあって鮮やかでした。私もお店を見て回ろうとして門をくぐった時、入口とはちがう感じがしました。もう一度入り口に戻ってみて、フッと気が付きました。それは、入り口のほうよりも、門の向こう側のほうが大勢の人がいて、その人たちは笑顔でした。私はこのお祭りを自分の手で表現することができたし、たくさんの方々の笑顔を見ることができたので、私も楽しく、思い出に残りました。

## 「高良山」

東海林 奈々美

北野中学校

私の家の近くには高良山があります。お正月には必ずお参りにいきます。そんな高良山に、今年絵の資料集めもかねて山登りに行きました。もともと体力もなく、とても大変だったけど、ふと顔をあげてみると、たくさんの緑が目にとびこんできて、疲れがあつという間に飛んでいきました。私はその緑の中に溶け込みそうな小さな建物をみつけました。私はそれを見たとき「この絵を絶対描いてみたい」と思いました。そんなとき、ちょうどこの絵の募集があつて、これこそ私の中の「自慢の景観」だと思ひ応募させていただきました。たくさんの緑がある中で、建物を目立たせるということがとても大変でした。でも完成した時は、これまでにない達成感を味わうことができ、この絵を描いてよかったなと思ひました。



# 銅賞



「池と夕日」  
辻 悠李  
荒木中学校

空を見ると、とてもきれいな夕日があり、池にうつってとてもきれいだっただけで、かきたいと思いました。青空と夕やけのちがいを出すのが難しかったです。色を何回も重ねて、上がうすく、下がこげくになっているのを表現しました。3回くらい重ねてもあまりこげくならなくて、大変でした。かいていると、空ってこんなふうになっているんだなと思えました。夕焼けだと、くもが青紫色になり、建物や木などが暗くなるんだなと思えました。水彩画や風景画は苦手なので、スケッチなどをして、もっとうまくないなと思いました。



「どこまでもつづく緑」  
中村 奈々  
青陵中学校

たまたま夏休みに部のみんなと一ノ瀬親水公園に行ったときに、その自然と美しさに見とれ、写真をとり、絵にしました。この公園は緑にかこまれていたので色づかいや影のつけかたを気をつけ、木の特徴などを個人的にさがしたりして描きました。描いているときすごく楽しかったです。



「いつもの帰り道」  
江上 初音  
荒木中学校

小学校から今までその場所を通学路とし、遊びに行くときも、ほとんど通った道で、「どこまで来れば、家まであとちょっと」と思える場所で、高校に入ったら通らなくなるかもしれない場所なので、中学校最後の思い出に描きました。絵の右側にある大きな木は、季節によって色が変わっていたり、雨の日の休けい場みたいになっていました。また、友だちとの待ち合わせ場所だったり、私にとって身近なものでした。そこからみえる夕日は、とてもきれいなので夕日の時間を選びました。絵の中の家の人はぜんぜん知らない人なのに、小学校のころはお世話になりました。約9年間同じ場所を通っていると、変わったものと変わらないものがあって、みえる風景が変わっていったのは、最初の頃は変だと思っていたけど、今では普通になっていて、これからの変化が楽しみになりました。小学校から中学校までの一番の思い出をまとめた作品です。



「水天宮」  
川口 美月  
荒木中学校

私は木と丸い橋を描きたかったので、水天宮を選びました。工夫したポイントは、石は黒だけ、橋は灰色だけと単色じゃなく、見える色をどにかいれた事です。水面を絵の具で表現するのは大変で、何回も色を混ぜて、水でのぼしてをくり返すのがとても大変でした。木も、点々と色々な色を混ぜて、木のやわらかい感じを表現するのも、とても大変でした。でも、自己満足かもしれませんが、遠目から見ると、立体的にできたので、よかったです。水色の小石がたくさん集まっている所は、表現するのが大変だったので少しおかしくなりましたが、石っぽく見えるように頑張りました。



「ハゼ並木」  
小野 瑞佳  
屏水中学校

久留米の景観ということで、校区内にあるハゼ並木にしよう、と思い描きました。また、最近柳坂のハゼを守ろう、という運動もあり、私も自分の得意分野でハゼの木の存在や美しさをより多くの人に知ってもらえたら、という気持ちで描きました。地元の美しい景観と、豊かな自然を大事にしていこうという思いが、自分の描いた絵から伝わるのかなと思います。絵では、ハゼの真っ赤に染まった葉を何より強調させて描きました。



「浅井の一本桜」  
猪口 菜月  
北野中学校

家族でドライブに行ったときに、突然目に入ったのが一本桜でした。あまりにも美しくみとれてしまったため、次の日にもう一度一本桜を見に行くことにしました。夜、ライトアップしてある一本桜を見ると、とても落ち着きました。薄いピンク色の桜は、見ているだけで別世界にひき込まれるような気がしました。今回、久留米市景観賞に応募するときに、一番に一本桜を思い出し、描いてみることにしました。実際に描いてみると、今まで描いてみたものと比べものにならないくらい難しかったです。とくに、ライトアップしているところを表現するのが大変でした。そして、水面にうつっている桜を表現するのも難しかったです。完成すると、とても達成感を味わうことができました。この桜は樹齢100年といわれているそうです。この作品を描いて、このようなものは、これからますます大切にしていかなければいけないものだなと感じました。

「おにがわら」

島 秀暢

城島中学校



おにがわらがとてもおもしろかったので、絵をかきました。

「北野天満宮」

徳永 祥子

城島中学校



私がこの作品をえらんだ理由は、北野天満宮の朱色、赤がとても印象に残りました。建物はとてもはりよくあり、とても美しかったです。

「水のおにがわら」

徳永 竜司

城島中学校



前回かいた絵で良い結果を取ったので、もう1度かいてみたいと思ったのでかきました。水もおにがわらの下からでていて、とてもかっこいいおにがわらだったのでかきました。

「山辺道文化館」

梶原 凜

城島中学校



私がこの建物にした理由は2つです。1つ目は建物です。あまりみたことのない建物だったので、ぜひ描いてみたいなと思ったことです。2つ目は色です。この色の建物を見たことがなかったので描きました。

「玉垂宮」

前田 悦里

城島中学校



兄がこの玉垂宮を描いたことがあったので、私も描いてみたいと思いました。普段はあまり見ないようなところの絵なので、うまく描けるかどうかかわからなかったけど、楽しんで描けたので良かったです。

「サルタヒコ神社」

田中 里沙

城島中学校



橋の前から見る左右の木のバランスと奥に見える神社の門が橋に良くあって、この景観を強く描きたいと感じたので描いてみることにしました。私は木に明暗をつけるのが苦手でしたが、先生のアドバイスのおかげで前よりは上手に明暗を表現できたと思います。明暗をつけることで絵の全体に遠近感を出すことができました。工夫したところは神社を少しなめから見えるようにしたこと、空を一色で塗らず、うす(ぼかし)たことで絵に深みが出たかなと思います。

「愛の泉」

古賀 更紗

荒木中学校



この風景をかいた理由は、久留米の有名な所といえば、この愛の泉かなと思ったからです。ふつう、泉なので、水が流れている所もいいかなと思ったけれど、水が流れていない所の風景もいいなと思いかきました。工夫した点は、この石のかげの所を黒やうす暗い色で表現しました。明るい所は、茶色や黒に白をまぜたりしてみました。むずかしかった所は、この木の緑色の表現をすることです。これも明るい所は黄色と白を使って、暗い所は青色と黒をまぜたふでの先を使って、べたべたとぬっていき事が一番むずかしかったです。この場所は、とてもきれいです。泉の水が流れていなくても、この石のままを見てもらえるといいです。これは見る角度によっても風景の感じが変わるので、ぜひ見て下さい。



百年公園に、5月のときにきたとき、たぐさんのつつじが咲いていて、とてもきれいだったのでこの絵をかきたいなと思いました。赤、白、緑、青と、とてもきれいだと思いました。

「つつじ」  
寺崎 莉維愛  
北野中学校



久留米駅は人がぎわっていて、楽しい雰囲気をかきたいなと思ってこの作品にしました。立体感がとても難しかったけれど、かいた後は達成感があって、かいてよかったなと思います。細かい所までかけたと思います。木をぬる時に二重ぬりをしたり、久留米駅の内部は立体的にぬれたと思います。人がギターをひいている所や、いすに座っている所、立っている所などをよく表現できたと思います。空も真っ白にするのではなく、少し青を入れて、水色のさわやかな空にしました。とてもいい作品になったと思います。色のぬり方は、本物に少しでも近づこうに工夫してかきました。

「久留米駅」  
田中 夏実  
城島中学校



ぼくがこの景観を作品にした理由は、まわりが無彩色で、奥の木のほうが明るく、きれいだと思ったからです。

「せせらぎ公園の風景」  
古川 己祥  
城島中学校



この神社は、私の地域にある自慢の神社です。この神社には、学問の神様で有名な、菅原道真を天神様として祀っています。地元の人はもちろん、各地から多くの方がこの神社を訪れます。絵に描いているのは、芽の輪(ぐり)といって、夜渡祭で無病息災を願って行われるイベントです。また、境内には露店が立ち並び、多くの人出で賑わいます。この絵は、まだ夜渡祭が始まっていない、準備中の神社を描いた絵です。

「北野天満宮」  
西山 美晴  
北野中学校



「玉垂宮」  
倉重 沙耶  
城島中学校

この絵は工夫している所があります。茶色の建物は下ぬりして色を自分らしく表現しました。影など色々下ぬりをして描きました。空も上からこくして、だんだんどうすしていき、グラデーションのようになっています。木は細かく枝など緑、黄緑、おうど色、ヒリジアンなど、こくして木のようによく表現しました。玉垂宮を上手に描きました。特に大変だったのが、茶色の建物の上の部分がかたかったです。影もでこぼこしているようにするのが難しく、表現するのが分かりませんでした。けど、友達のアドバイスや先生の指示で上手にできました。色々工夫して描いているので、よく見て下さい。



「夕暮れの久留米」  
小澤 健  
福岡教育大学附属久留米中学校

今まで何気なく通っていた久留米の街をこのコンクールを機会にじっくり見てみようと思い、この絵を描きました。自分としては、やわらかい雰囲気の絵にしたかったので、この淡い色調を選んで正解だったかな、と思います。久留米の街はとてもやさしいイメージなので、ペンの線もフリーハンドで仕上げました。これも、久留米の街を表すのには合っているように思います。僕は何年もこの周辺を通っている中で、夕焼けでオレンジに染まった頃がとくに好きでした。友人と遊んだ帰り道、学校から帰る時、塾から帰る時、夕焼けを見るときでもホッとしていました。久留米のやさしくて、ホッとさせる感じが、これから何年、何十年先にも続いてほしいなと思います。



「善導寺」  
河口 見優  
城島中学校

この景観を作品にした理由は、このお寺の周りには自然があふれているからです。たとえば木やじゃり、こけなどです。こういう自然にあるものを本格的に描いたことがなかったので、挑戦してみようと思いました。自然にある物はとても詳しく、そして細かく描かなければそれらしく見えないので、とても大変でした。特に大変だったのはこけです。この絵では約半分の面積にこけがあるので、よりこけらしく描くことを意識しました。そのために何度も重ねぬりしました。また、全体的に遠近感を出すことも意識しました。木の葉の色を少しずつ変えるなどして工夫しました。建物で遠近感を出すのが難しかったです。しかもこの絵は全体的に暗い感じなので、とても頑張りました。この絵が全体的に暗いということとは遠近感が出にくくなるだけでなく、色の鮮やかさにも関わってくるので、少し本来の色とは違う色でぬったりして全体的に暗く見えすぎないようにしました。このようにこの絵には工夫がたくさんつまっているので、ぜひ見て下さい。